

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3492700053
法人名	社会福祉法人 佐伯さつき会
事業所名	グループホーム ゆうわせせらぎ園
所在地 (電話番号)	広島県廿日市市友田280番地 (電話) 0829-74-4700

評価機関名	社会福祉法人 広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年10月13日	評価確定日	平成22年1月8日

【情報提供票より】(平成21年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	11.8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	10 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢	平均 82.9 歳	最低 69 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐伯中央病院、友和病院、江島歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム ゆうわせせらぎ園(以下「ホーム」)は、廿日市市郊外の田園地帯にあります。
法人は、平成9年から佐伯地区で幅広く高齢者施設を経営されており、事業経営やケアのノウハウを活かし、一人ひとりのニーズに応じた支援が行われています。ホームでは「自立支援と生活の質の向上のケアを基本とします」という理念を掲げ、利用者本人と家族の立場に立って支援することをめざされています。
地元出身の利用者が多く、住み慣れた地域でその人らしく暮らすための取り組みが実施されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回初めての評価のため該当ありません。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義について職員全員で協議したところ、改善に向けて取り組む事項が多くあることがわかり、今後速やかに改善に向けて取り組もうとされています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーから得た地域の情報をもとに、身近な行事の参加等を通じて、利用者の生きがいやサービスの質向上につなげられています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや健康状態について、面会時や電話を通じて随時報告されています。また、平成21年9月から月に1度グループホーム通信を発行し、利用者の生活状況等を個別に記入する欄を設けて家族に報告されています。また、今回初めて家族等へのアンケートを実施し、集計結果を今後の運営に反映できるよう取り組まれています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し、地区コミュニティ活動、お茶会、お祭り、文化祭など積極的に参加されています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自立支援と生活の質の向上のケアを基本とします」という理念を掲げられています。 また、利用者が愛され地域から信頼される施設をめざして、サービスの質向上に取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は、玄関に掲示され、職員は日々のケアの中で常に理念を意識し、業務に取り組まれています。 また、研修会や業務会議等で理念を共有し、日々実践できるよう取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、コミュニティ活動、お茶会、お祭り、文化祭などの行事に積極的に参加されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めて自己評価に取り組まれました。自己評価の意義について職員全員で協議され、改善に向けて取り組もうとされています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議が開催されています。町内会長、老人クラブ会長、民生委員児童委員、市役所支所職員が参加し、意見交換が行われています。町内会長、老人クラブ会長の意見や情報が地域の身近な行事参加につながるなど、利用者の生きがいやサービスの質向上に活かされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム開設時には市担当者から基準や届出等について指導を受けていました。開設後は、必要なときにだけ報告されています。	○	運営するうえで生じる課題等について、行政と連携して検討することが重要です。今後は、市介護保険課と連携を図られることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、面会時や電話を通じて随時報告されています。また、平成21年9月から月に1回グループホーム通信を発行し、利用者の生活状況等を個別に記入する欄を設けて家族に報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今回初めて家族等へのアンケートを実施し、集計結果を今後の運営に反映できるよう取り組まれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用や異動があったときは、事前に研修を行い、利用者とのなじみの関係を築けるよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の介護技術向上委員会が作成する研修計画のほか、必要に応じて外部の研修会に参加されています。研修参加後は伝達研修で知識や技術を共有し、介護技術の向上に取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に入会し、同業者との交流、研修会に参加されています。また、廿日市市社会福祉協議会が実施する施設間交流にも参加し、市内の施設との交流に取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に事前に訪問してもらい、共同生活になることや、生活そのものが変わることなどによって、本人や家族に、環境の変化が大きいことを理解してもらい、入所できるよう配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が一緒に掃除、洗濯などの家事やおやつ作りをされています。その活動の中で経験したことを職員間で共有し、利用者が暮らしの中で役割を実感したり、自信につながる支援をされています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
を					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の日課以外にも、その都度利用者のやりたいことを聞かれています。本や新聞を読むなど、利用者一人ひとりの楽しみを優先した生活を支援されています。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議は利用者や家族の意見を反映できるよう、職員一人ひとりの意見を聞き、状況把握が行われています。利用者本位のサービスが実施できるようケアプランを作成されています。	○	利用者のニーズをより具体的に把握し、ケアプランに反映させるために、介護職だけではなく、看護職や栄養士等の意見を取り入れながら作成されることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しのほか、利用者の状況に応じて随時見直しをすることで、現状に即したサービスが提供できるよう取り組まれています。	○	介護計画の見直しでは、定期的なモニタリングと、利用者の現状に即した計画作成が求められます。目標の達成状況及び評価などの観点から分析することを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者への柔軟な支援はもとより、近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイサービスを利用できるように施設の多機能性を発揮されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に、毎月一回の通院が継続できるよう支援されています。また、嘱託医との連携も密にされ、容態に応じて適切な対応ができる体制をつくられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設して日が浅く、重度化・終末期の利用者がいませんが、契約時に本人、家族の希望を把握されています。今後は、利用者の重度化も見込まれ、適切な対応ができるよう準備に取り組まれています。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを大切にするケアに取り組まれています。トイレ介助や利用者の部屋に入るときは、必ずノックと声かけを行うなど、さりげない配慮を心がけておられます。また、個人情報の取り扱いにも十分配慮されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを大切にしながら、希望に添った暮らし方に配慮されています。散歩、読書、レクリエーションなど一人ひとりの思いを汲み取りながら支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人本部で作られ、ホームでは準備や盛り付けを職員と利用者が一緒にされています。食事介助が必要な利用者には、声かけをしながら本人のペースで食べられるよう配慮されています。 おやつは利用者と一緒に作られています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の身体状況に配慮しながら、入浴、シャワー浴、足浴など希望に応じて、柔軟に支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体操やレクリエーションの機会を設けていますが、利用者の意思を尊重され、読書や長年の習慣を続けられる人もいます。 また、掃除や食事の配膳、片付けなどの手伝いや、畑作りなど、利用者のできることを支援されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、ホームの近くにあるスーパーに、職員と一緒に買い物に出かけたり、静かな田園地帯の散歩をしておられます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアについてはよく理解されています。 ホームが3階にあるため、エレベーターを利用して外出し、安全確保の観点から職員が同行しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画、消防計画を作成し、消防訓練を年2回実施されています。 地元自治会と災害応援協力協定を締結し、自治会、消防署と連携し定期的な訓練を行える環境をつくられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士と連携を図りながら、栄養バランスに配慮した食事が提供されています。また、ティータイム時には個別におやつや水分補給に心がけるなど、利用者の栄養や水分摂取に努められています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは地域の町並み、田園風景がよく見え、利用者は稲刈りの様子などを見ておられます。畳のスペースもあり、団欒できる場所となっています。また、食卓には季節の草花が飾られ居心地のよい空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けですが、飾り物、タンス、テレビなどは利用者が好みものを持ち込まれ、居心地のよい部屋となっています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームゆうわせせらぎ園 (東・西ユニット共通)

評価年月日 平成 21年 9月 1日

記入年月日 平成 21年 9月 10日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 部長 氏名 廣 兼 睦 子

目 次

I 理念に基づく運営	1	IV その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援	9
1 理念の共有	1	1 その人らしい暮らしの支援	9
2 地域との支えあい	1	(1) 一人ひとりの尊重	9
3 理念を実践するための制度の理解と 活用	2	(2) その人らしい暮らしを続けるため の基本的な生活の支援	10
4 理念を実践するための体制	2	(3) その人らしい暮らしを続けるため の社会的な生活の支援	11
5 人材の育成と支援	4	(4) 安心と安全を支える支援	12
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	4	(5) その人らしい暮らしを続けるため の健康面の支援	13
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとそ の対応	4	2 その人らしい暮らしを支える生活 環境づくり	14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ の支援	5	(1) 居心地のよい環境づくり	14
III その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	6	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環 境づくり	15
1 一人ひとりの把握	6	V サービスの成果に関する項目	16
2 本人がより良く暮らし続けるための介 護計画の作成と見直し	7		
3 多機能性を活かした柔軟な支援	7		
4 本人がより暮らし続けるための地域 資源との協働	7		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念をホームページ等で掲載している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	新人研修・業務会議等で周知している。	○	理念を掲示し、常に確認でき実践できるようにしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	施設の行事に参加を呼びかけたり、利用者が、地域行事への参加をすすめ、その中で理念を地域住民へ理解してもらうように努めている。	○	職員一人ひとりが理念を自覚して行動することが、家族、地域への理念の浸透につながることでであると自覚する。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	挨拶をすることを心がけている。 近隣の方が、犬の散歩で施設の中を通られたり、他の施設の方が散歩のときなど、施設のベンチに座り休憩をしたり、お話しをして行かれる。季節の花をいただいたりする。	○	職員一人ひとりが地域の一員であることを自覚して行動する。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、活動に参加している。 友和地区コミュニティー活動(れんげ祭り・いわぐみ地区サロン)に参加をしている。	○	地域の行事に積極的に参加し、園での行事に地域の方の参加を呼びかけている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	法人全体で、高齢者の自立支援にむけて独自事業を展開している。	○	
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を受け、多面的に施設運営を見ていきたい。	○	評価を受け、職員と共に話し合いを行い、サービスの向上に向けて、具体的な方法など話し合っていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を行い、協議した内容を日々の業務に生かしている。	○	委員の方々から、議題を提案していただいて、本来必要とされる事柄を討議しそこでの意見をサービス向上に活かしていく。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	開設して間がないため、実施していないが計画している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	開設して間がないため、実施していないが計画している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止基本方針・高齢者虐待防止について、マニュアルを作成し、介護向上委員会、研修を行っている。	○	定期的に研修を実施すると共に、利用者の状況を日々把握する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項を基に、施設の状況、職員配置など説明し、不安や疑問など納得いくまで説明するよう努めている。	○	重要事項を基に、誰が説明しても、分かりやすくするために、マニュアルなど作成し分かりやすい説明を心がける。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情相談窓口を設置し、苦情解決第三者委員を選任している。	○	苦情解決第三者委員、苦情相談窓口の利用方法等しつかり説明する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	事業所にスタッフの写真を掲示している。 定期の報告及び面会時や電話で報告している。	○	預かり金については、定期的に報告し、心身の状態の変化はこまめに家族への報告を行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を設置し、ホームページで案内している。	○	アンケートによる調査を行いサービスの向上に努める。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に業務会議を開き、職員の意見や提案を受け運営に反映させている。又決算終了後報告会を行い意見交換をしている。	○	予算・決算について定期的に会議を開き、要望・意見等聴き事業報告も行う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	事前に、勤務表を作成している。状況の変化があれば、随時勤務の調整を行っている。	○	利用者の状況の変化、職員の状況に即応して、勤務の変更を行っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動のさいは、職員に研修を行い、利用者の状況等把握するように努めている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職場内研修、外部研修を受け、業務中に把握したことを元に、マニュアルの作成。更新に努め質の向上に努める。	○	研修計画を作成し、人材育成に努める。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症グループホーム協会への入会を検討している。廿日市市社会福祉協議会主宰の施設間交流に参加する。	○	日本認知症グループホーム協会に入会し、同業者との交流、研修等参加していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	年二回職員親睦会、及び年末慰労会を全員参加できるように施設内で行う。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員の国家資格等の取得を支援し、給料等の処遇面に反映させている。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 </div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人の意見を尊重し、丁寧に聞き説明をするように努めている。	○	本人、家族の不安をよく聴き、今後の援助の内容、方法など十分に説明するよう努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接のとき、本人の状況、家族の状況及び希望を聴き、施設の運営、処遇を説明し理解を求めよう努力している。	○	身体状況が悪化した場合の対応方法、方向性について、しっかり説明を行い将来的な不安を取り除けるよう心がけている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の住まいで困難(食事・徘徊・入浴・排せつ・家事一般)な事例を理解し、説明をし本人、家族に一番必要なサービスを提示する。	○	本人、家族の立場に立ち、画一的なサービスの提供にならないように注意する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に、訪問していただき施設の雰囲気、居室など見ていただき、入所後早い時期に面会等求めている。	○	デメリットについても説明を行うことで、それについての対応方法などについて、話し合う。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯など家事やおやつ作り等を共にしその中から色々と経験されたことを教わっている。また職員も利用者と一緒に食事を摂っている。	○	共に過ごす時間が長くなることで、適切な関係が崩れてしまわないように注意していきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時などお会いするときには、利用者の状況や行事などへの参加を促している。	○	行事等については、案内をし、家族の参加を促している。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会時など訪問されたとき、お声をかけるように努力している。	○	家族の面会時には行事の写真など見ていただき、様子をお伝えしている。又記念撮影を行うことをしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や、訪問で色々な方とお話など出来るように配慮している。	○	地域の行事に積極的に参加することで、関係の保持、新しい関係の構築に努める。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ゲーム、レクリエーションなど取り入れ調和をもてるように配慮し、関係が悪化した場合は、職員が間に入り納得がいくまで話しを聞く。	○	新規の利用者が入居した場合、特に注意して支援を行う。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も現状を聞き、相談にのる。	○	退所後、他の在宅サービス等の利用の必要性があれば、他のサービスとの連携、調整を図る。

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事時間や入浴など定時にとらわれず対応している。	○	他の利用者に配慮し、個々の生活のリズムを尊重していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活の中で、事あるごとに、お話の中から、生活歴や環境など把握するように努める。	○	利用者、家族から以前の生活状況についての聞き取りを十分に行う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の様子、言動に注意し、記録に留め総合的に把握するように努める。	○	周りの雰囲気にあわせて、無理をしていないかよく見極める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケース会議で、本人や家族の意見を反映できるように、それぞれの意見、状況把握の記録を総合して計画を作成する。	○	真のニーズをしっかりと把握できるよう、日常生活での様子観察をしっかりと行っていきたい。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化に応じケアプランを作成する。	○	職員主体の計画になってしまわないように、本人、家族と話し合っ、本人、家族の立場に立った計画を作成する。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を基にケース会議で検討し必要時に応じて介護計画を変更する。	○	記録してある行動の傾向を把握し、その要因が何であるかをしっかりと探っていく。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通所生活介護・短期入所生活介護が併設されている。法人内には、特養、養護、ケアハウス、居宅支援等運営しているので連携を取っている。	○	各ユニットごとの小規模での支援。園全体での大規模での支援を必要に応じて行っている。
----	--	--	---	---

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア活動、介護相談員により、毎月一回訪問を受けている。 避難訓練などで消防署の支援を受けている	○	地域との災害応援協力協定を結び、外部からの支援を受けることで、職員も自らを見つめ直す機会として捉えていきたい。介護相談員・ボランティアの訪問法話が月に1回あ利充実した活動にしたい。
----	---	--	---	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		○	今後、他のサービスの必要性があれば、連絡調整を行い、適切な援助を行う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		○	今後、必要に応じて地域包括支援センターと協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	これまでの、かかりつけ医が継続できる方は、継続している。かかりつけ医の往診を毎月1回受けている。	○	必要なとき、適切な医療が受けられる様に、家族の協力を得ながら受診などの支援を行っている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院が認知症の専門医であることや利用者の主治医にもなっているため、定期の往診がありその際に受診できる態勢になっている。	○	定期的な往診であるので生活の場での利用者の様子、変化を主治医に診てもらうことが出来、適切な診察が行われている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	非常勤看護職員(デイサービスと兼務)を配置しているため適宜相談し日常健康管理をしている。	○	看護職員がデイサービスとの兼務になるので、情報の伝達をしっかりと行うよ心がける。
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先に訪問し、利用者の状況、本人の意思など把握し、主治医と相談する。	○	入院先に訪問し本人の状態を確認するとともに、本人の不安感を取り除けるように努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	今後早急に検討していきたい。	○	契約時など初期の段階で、本人、家族の希望を把握し、本園の方針を説明しておく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療連携を進めるように、検討中	○	今後、確実に利用者が重度化していくことを念頭に置き、勉強会、研修を通して適切な対応が出来るように準備していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。		○	平素より関係機関との良好な関係を築き、住み替え等がスムーズに行える体制を整えておく。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報保護に関する規程を整備して、実施している。	○	利用者に対する対応について注意すると共に、職員間のやりとりについても十分注意していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	時間をかけて、本人の思いを十分聞くように努めている。	○	日々のかかわりの中で、言葉に表出できない思いをしっかりと感じ取るようにしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な日課はあるものの、本人のペースにあわせ、その時々で変更している。	○	本人の生活リズムを大切にしながら健康状態、心身の状態の変化に十分注意していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	一人ひとりの希望に添い、服装などの助言もしている。理美容は、本人の希望により家族とともに行きつけのお店に行かれたり、理美容の訪問で受けられる場合もある。又ボランティアさんにより美容(メイク)の支援も予定している。	○	生活の活性化の要因になるように継続的な支援をしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日常は、準備や、片づけを利用者の皆さんとしている。時々、皆さんの注文を聞き、利用者と、職員で作っている。	○	準備、片付けが負担にならないように注意すると共に、準備、片付けの出来ない人への配慮を行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは、希望に添って手作りや、好みのものを準備している。飲み物も、数種類準備している。	○	利用者それぞれの嗜好を把握し、内容が偏らないように提供していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個別に排せつパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	○	プライバシーに配慮した声掛けを行うと共に、自立に向けた支援を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望により、入浴・シャワー浴・脚浴など支援している。	○	入浴拒否の多い方は、拒否の原因を探り、快適な入浴への支援を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者それぞれが、共同生活室で時を過ごしたり、畳コーナーで休んだり、眠たくなれば居室で過ごされる。	○	快適な空間作りを心がけると共に、安全にも十分配慮した環境整備を行う。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	朝礼、体操、レクリエーションを行っているが、思い思いに、読書や長年の習慣を続けている方もある。 居室や共同生活室の掃除や配膳、片付けなどそれぞれ役割を持ってもらっている。	○	役割を持ってもらうことで生活の張りにしてもらうと共に、無理強いしないように十分注意していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	時々、買物に同行し、いろいろ選び購入される。	○	経済的な状況は個々によって違いがあるので十分な配慮を行っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くの散歩を行っている。	○	今まで以上に本人の希望の時に散歩の機会が持てるように取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	お花見、遠足など計画的に外出している。	○	季節ごとの行事を計画することで四季の変化を感じてもらい、家族の積極的な呼びかけている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、希望により掛けられるように支援している。 家族の方に、年賀状を出してもらった。	○	利用者に、年賀状、暑中見舞を出し、家族に喜んでいただいている。季節折々の便りが出せるようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問があった場合、居室でも、共同生活室でも気軽に話が出来るように配慮している。	○	園での行事に家族の方等の参加を呼びかけ、訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束その他の行動制限廃止マニュアルを作成し、職員研修や委員会で研修している。	○	何が、具体的に身体拘束にあたるのか職員一人ひとりが理解できるように研修等行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニット間の移動は自由に出来る。建物の外には、3階部分に施設があるため、職員同行となる。	○	鍵を掛けないことが、逆にプライバシーの侵害にならないように気をつけていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定時に所在確認をしている。	○	所在確認は利用者がいつもチェックされていると感じないように配慮して行う。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬等は、利用者の入りにくい部屋に置き、手の届かない場所にて保管している。	○	園で、保管させてもらう物は本人、家族と話し合い、了解を得てから保管させてもらう。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会で協議し、業務会議を開いている。	○	報告、連絡、相談を確実にいき、同じ事を繰り返さないように取り組んでいく。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	対応マニュアルがあり、訓練を行っているが未だ定期とはなっていない。	○	様々な場面、具体的な事柄を想定した訓練を定期的に行っていききたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災計画、消防計画を作成し、訓練を計画的に行う。自治会に加入し地域との連携を取っている。	○	自治会と、災害応援協力協定を締結し、自治会、消防署と連携し定期的に訓練を行い、地域としての災害対策に取り組む。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	状況を、面会するときなど個々のリスクについて説明し、現状を説明しより良い方法を協議している。	○	リスク等の説明だけでなく、しっかりと家族とコミュニケーションを図っていくことで安心していただけるように心がけて行く。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の健康管理し、異変に気付いたら、主治医、家族と相談し対応する。職員間は申し送りなどで、情報の共有化に努めている。	○	日々、バイタルサインをチェックし、記録することで、状態の変化に気付くようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は確認し、チェック表に記入し、目的や副作用、用法や用量について理解するように努める。	○	誤薬を防止するため、投薬時には声を出し、名前・薬の確認を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日水分補給、食事、排せつの確認等を行い、便秘の予防と対応に努める。		水分、食事の摂取量、排せつ状況はチェック表を使用することで、状態の変化がすぐに確認できるようにしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、必要な方には職員が介助している。	○	口腔ケアの重要性を職員が認識すると共に、利用者にも口腔ケアの重要性についても説明を行う。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士による献立により、栄養摂取や水分確保できているが、個別に水分補給、おやつなどで提供している。	○	個々の適切な食事量を把握すると共に、摂取量の変化に注意していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会で、マニュアルを作成し、感染者情報のステージにより対処方法を取り決めている。	○	感染症対策についての注意、喚起を利用者に行い、うがい、手洗い等の予防が習慣化していくように努める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品管理衛生マニュアル・緊急対応マニュアルにより実施している。	○	食事の準備等で利用者が関わる場合が多いので、より一層の衛生管理を行っていきたい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	道路と敷地の間は塀などで隔離せず、入りやすい状態になっており、花壇を配置し、ベンチも配置している。	○	近隣の方が、散歩等で、園の敷地内を利用されている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関では、スリッパは使用のたびごとに清掃している。玄関及び居間等観葉植物、季節の草花などで、環境整備している。	○	季節の草花を飾るようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳コーナー・ソファ等設置し、ユニット間の交流も自由に出来るようにしている。	○	共有空間の中で、独立した雰囲気を出せるようにレイアウトなど変更しながら、居場所の空間を作りたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設ではベッドを用意し、その他の家具は、使い道具、飾り物など、ご本人の好みのものをお持ちいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調設備により温度調整をすると共に、24時間換気扇稼働させ、季節によっては、窓や排煙窓を開けている。次亜塩素酸水により脱臭、湿度調整を行っている。	○	快適に感じる温度は個々によって差があることに注意し、空調等の管理を行っていききたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー・及び手摺の設置により、安全に移動が出来るように配慮している。 浴室は、個浴で、床は滑りにくい仕上げになっている。	○	ハード面の整備に安心せず身体状況に応じた適切な援助を行う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入口には、名札や目印となるものを用意している。 居室には、掲示板を設置しご家族などの写真等掲示できる。	○	不自然な目印とならないように、本人の作った物を目印として使用するなどしている。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物周囲は、自由に散歩でき、草花が育てられるように空き地も確保されている。	○	草花の管理を行ってもらうことで、心身の状態の安定にもつなげて行きたい。

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働いている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目